

【足立区地域自立支援協議会相談支援部会】会議概要

会議名	令和4年度 第2回 【足立区地域自立支援協議会相談支援部会】		
事務局	福祉部 障がい福祉センター		
開催年月日	令和4年9月26日（月）		
開催時間	午後2時00分～午後4時00分		
開催場所	障がい福祉センター 5階ホール		
出席者	森 和美 部会長	青木 綾子 委員	中出 敦子 委員
	谷内 秀和 委員	片桐 愛子 委員	小杉 信之 委員
	小田部 秀子 委員	山田 尚美 委員	関口 久美 委員
	高橋 俊哉 委員		
欠席者	なし		
会議次第	1 開会 障がい福祉センター所長挨拶 2 議事 相談支援の立ち位置から見える足立区の地域課題について（意見交換） 3 事務連絡 次回の開催予定 第3回 令和4年12月22日（木）午後2時～ 障がい福祉センター5階ホール		
資料	配布資料 【資料1】次第 【資料2】席次 【資料3】令和4年度第1回相談支援部会議事録 【資料4】自立支援協議会（第2回相談支援部会）資料 【資料5】第2回相談支援部会で優先的に取り上げる項目アンケート結果 【資料6】令和4年度第1回相談支援部会協議後の課題まとめ		
その他	公開状況：公開 傍聴：2人		

様式第2号（第3条関係）

（協議経過）

1 障がい福祉センター所長挨拶

○佐々木事務局員

皆さんこんにちは。定刻をやや過ぎてしまっていて申し訳ございません。ただいまから第2回相談支援部会をはじめさせていただきますと思います。まず初めに当センター所長からご挨拶させていただきます。

○高橋委員

皆さんこんにちは。前回7月に行われた第1回相談支援部会に引き続き、今年度第2回目の相談支援部会となります。だいぶ気候も秋らしくなり、コロナも最近は落ち着いているとのことで、今回も対面での開催とさせていただきます。

前回、相談支援の立ち位置から見える足立区の地域課題ということで、皆さんから活発な課題の洗い出しをしていただきました。今回、さらにそれを深めていきたいと思っておりますので、前回同様、今回も活発なご意見をどうぞよろしくお願いいたします。

○佐々木事務局員

ありがとうございます。それでは議事に入る前に、本日の配布資料について確認をしたいと思います。第2回相談支援部会次第が一番上です。席次、前回の会議録、自立支援協議会資料、そして、前回、皆様が「こうかな」と出した、ホワイトボードに張り出しをした写真3枚。それから相談支援部会で優先的に取り上げる事項のアンケート結果、自立支援協議会課題まとめがついているかと思えます。

それでは早速、議事の方に移っていききたいと思います。それでは森部会長、よろしくお願いいたします。

2 議事

○森部会長

それでは改めまして、よろしくお願いいたします。本日は相談支援の立ち位置から見える足立区の地域課題についてということで、前回に引き続き行っていきたく思っております。2か月空いてしまったので、前回の簡単な振り返りと、事前に皆さんからアンケートを集めさせていただいて、その課題の中からどこを取り組みたいなというところで、お聞かせいただきたいているかと思っておりますので、その辺を事務局の方からご説明いただいてもいいですか。

○佐々木事務局員

前回、皆さんと事前アンケートに基づいて議論の方をさせていただき、ホワイトボード写真3枚ありますけれども、こういう形で話し合いながら議論をしていたというところで、基本的には事前課題を挙げていただいた方にご意見をいただいて、その意見にくっつく形で追加のご意見をいただき、議論を深めながら分類をしてきたというのが前回のものになります。

最後に皆さんから一言ずつ話をいただいているのですが、その時には、これからこちらのほうで議論する内容を、重点的にどういったことに取り組みしたいですか、というところで、お一人ずつにご意見をいただいた、という形で終わっております。

それで今日は、皆さんから事前に2回目の時にご意見をいただいた中身について、どれを優先的に取り組んだらいいかどうか、事前にアンケートをさせていただいて、出欠の確認の時に回答をいただいています。それが、第2回相談支援部会で優先的に取り上げる項目アンケート結果というものになりますが、皆さんがどの項目にご注目されたのかというのが分かるように表記させていただいています。

1から13までありますが、こういうことを優先的に取り組みたいですということも挙げていただいたという形です。お一人3つずつということで指定させていただき、多いものややっていったらいいのでは、と出したものになります。見ていただいて分かりますように、多いものとしては7番、10番、1番が上位の3項目になります。あと1番は地域資源を知る活用するに注目したいということになります。多い所は「地域課題の抽出を活かして地域に活かす」、また、事例検討から課題として挙げていきたいということです。また10番のところですね、検討した内容を地域に還元できるか考えたいという、この3つが大きく注目をされたということになっています。ここまでが結果の集約ということになろうかと思えます。

今回、いただいた中身を見ると、項目出しが具体的ではなかったもので、全般を俯瞰的にみると、結局のところは、地域の課題の抽出を通して地域に活かせる取り組みを検討していきたいという大きなところに行き着いてくる中身かと、まとめながら思ったところです。一個ずつをどうこうしていくのではなく、これとこれは同じ領域に入るので一緒に検討していくことができ、最終的にはどう活かしていくかということにまとめとしていくことになるかと思えます。あとは、相談支援をする立場のところは分かるのですが、相談する側の意見もしっかりと反映させて地域に活かせる取り組みを出していくような視点を入れながら、最終的にはまとめていくという風には思っております。ですので、今日に関してはもう少し具体的なところで詰めて行く感じのイメージで進めていけると良いのではと思っております。

この後も森部会長の方で、うまくまとめていただけると思いますので、一旦マイクの方、

お返ししたいと思います。必要に応じてホワイトボードもありますので、また書くこと、何かしらに活用できればと思っております。

○森部会長

ありがとうございました。

皆さんからの事前アンケートの結果は、地域の課題を抽出して検討というところに繋がっている、ということですが、そのために何をやるか、というところがまだ見えてこないかと思えます。今、項目を出していただいた13の中で、多い少ないはあるのですが、「資源を知る」ということ、すごく大事だろうなと思えます。私も自分の専門分野は、そこそこ知っている方だと思いますが、精神であったり身体であったり、自分の専門分野と離れてしまうとなかなか難しいところだと思います。例えば私だけでなく、専門分野でないところは、内容が見えてこない分からないだろうなという気がします。あと、13番の「本当に必要な人に届く情報発信の取り組み」も、情報発信をしていかないと、相談したいと思っただけでできない、そもそも分からないということがあるかと思えます。

また、若干、この部会に参加している事業所側の方は、悪い言い方ですが、実はそれほどお客さんに困っていない、自分のところで抱えているケースだけで、実情手いっぱいという感じがあるという風に思うのです。だけど、「もうお客さん来なくて大丈夫です」と言ったら、今、相談できていない方たちはどうすればよいのか、という話にもなってきますし、また、実際に発信する方法だったりとか、内容だったりって、具体的に考えると、捉えどころがないのです。どういうニーズがあって、どういう方たちが相談したいかっていうところも、実はちゃんと捉えきれていないのではないかという気がするのです。

すね。なので、この辺の整理も、事業所側の事情だけで走るのではなく、ご利用者側の当事者の皆さんの必要性っていうものをしっかり捉えながら進んでいかないと、とてもチグハグになってしまうと思うので、その双方向から、深めていけたらいいかなと思っています。

この後、一人1、2分になると思いますけれども、皆さんの、その辺のことを見た上でのご意見を少しずついただきたいと思います。では、最初に事業所側からお願いいたします。

○小杉委員

成仁相談支援事業所の小杉です。よろしくお願いたします。

私は7番と10番と13番をあげさせていただいたのですが、地域課題の抽出っていうのが、スタートラインになると感じています。課題は多岐にわたるといいますか、人それぞれ課題の感じ方が違うと思うのです。その中で全部の課題に取り組んでいこうというのは、なかなか現実的に厳しいかなというところがあるので、この相談支援部会の中でもいろんな課題が出てくると思うのですけれども、優先順位をつけるなりして工夫していかないと、散漫になってしまうのでは、というのが印象としてはありました。課題を単に抽出するだけではなくて、しっかり地域に還元できるよう、具体的なアイデア出しを、この中で、少しディスカッションできるとよいと思いました。

最後に13番のところで、精神障がい分野ですと、長期入院している患者さんというのは、社会的な入院と言われ、問題になっています。退院支援をするときに地域移行というサービスが使えるには使えるのですけれども、このサービスを10年、20年、入院している患者さんがご存知かという、知らないわけですね。それではどうやって情報を

キャッチするかというと、入院している病院のソーシャルワーカーさんが、この人、地域移行はどうだろうか、というのを情報発信して、初めて私たちは分かるというところで、この病院から情報が出てくるのを待っている状態というのが、本当に相談支援事業所としてよいのだろうか、課題として考えています。必要な人に必要な情報を届ける作業というのは非常に権利擁護的な意味でも大事かと思っています。

他区さんでの取組ですと、手紙とかを相談支援事業所から病院に送って、ちゃんと見放してないよ、必要なときにはこういうサービスが使えますよ、という情報を発信していたりするので、そういった活動も、相談支援事業所も手いっぱい地域移行をやる事業所も、なかなか多くはないとは思いますが、やれることはやっていきたいと、個人的には考えています。

○谷内委員

精神障がい者自立支援センターの谷内です。よろしくお願いたします。

私は前回、参加できなかったこともあって、議事録を拝見して、今回のアンケートに回答させていただきました。まず、地域課題をそもそもどうやって客観的に把握するのかということが、一番難しいと正直思ったところです。今、小杉さん、森さんもおっしゃったように、相談支援事業所はもうすでに抱えている人たちで運営が回っていて、その方たちの対象者支援を通して、課題を感じることはできます。ただ、まだ社会資源に繋がっていない、潜在的なニーズが、足立区にはたくさんあって、そういった方々との関わりに踏み出していくことは、相談支援としての基本的な、最終的なあり方、理想と思っています。

ただそれをどう進めていくかは、私もまだ全然、アイデアはないのですけれども、そこ

を理想とするならば、まずは、現在の相談支援事業所が感じている課題を積み上げていくというところが最初の一步というところがあります。そこで、それが相談支援事業所の課題になるのか、地域の課題なのかを分けていって、社会資源を知る、活用するというのもありますが、そこを積み上げていった上で、既存の社会資源だけではなかなか難しいというところを明らかにし、それを踏まえたいうと、足立区の地域課題としてあげていくというステップを踏んでいくことで、ようやく足立区の中での地域課題というところは、ようやくおぼろげながら見えてくる気がしました。なので、まずは相談支援事業所だけではなくて、ご家族や当事者の方々の意見もそうですけれども、そこをまずは何らかの手段で集めていくということが必要になるかと思えます。

また、相談支援事業所だけが相談を受けているわけではないので、就労支援事業所とか、日中活動場所や医療機関も含めて、そういったところに相談がどういったものが集められているか、全体的に集めていくことができれば足立区としての地域課題が把握できると感じているところではあります。散漫な意見ですみません。

○青木委員

うめだあけぼのの青木です。

あらためて、最近自分がショックを受けたことなのですが、保護者の方から「児童発達支援事業所の一覧になっている表があるじゃないですか。あの中に、とっても細かく色々なことが書いてあるけれど、どこを選んでいかかわからないんです」と言われた時に、「その一覧ってどこにあるんだろう」と思ったのです。区が出している事業所の名前とか連絡先の一覧を、区のホームページで拝見することはできますが、その一覧がどこにあるの

かずっと引っかかっている、その時は保護者の方に聞けずに、別のことでホームページを探していたら、児童発達支援事業所、放課後等デイサービスの内容が細かく書いてあるものが、オープンな情報として出ていたのです。

これは後々、記録になるので、その正式名称は後程調べてお伝えできればと思っはいるのですけれども、「自分の専門外の分野との連携について」という項目もありつつ、実は、自分が子どもや障がい児専門として、日々仕事をしていますが、子どもと、あるいは障がい児のことですら、この立場にあってもきちんと把握できていなかったということが、すごくショックだったと思っています。では自分がどうやって情報を取りに行くかとか、それは自分の課題ではあるけれども、うちの職員も知らなかったということもあり、情報をどうとるか、ということは、一個人の課題としてだけではなくて、地域の課題として、「社会資源を知る」ということを考えていけるとよいとあらためて思いました。

もう一つは、障がい児、子どもとなると、障がい福祉と子ども施策、障がい福祉課とげんきとの協働、両方にまたがるところに私たちはあるので、相談ニーズのある保護者の方、どこに繋がるかによって差があるという時は、やはりその辺をどういう風に繋いでいくか、また周知していくか、あらためて地域の課題として「社会資源を知る」ということを深掘りしていけるといいと思いました。

○中出委員

あいのお相談センターの中出と申します。よろしくお願ひいたします。

身体の方を中心に、事業所の方で計画相談を作成させていただいているのですけれども、社会資源が少ないところが、最初課題と見えていたのですが、見ていくと、社会資源の少なさだけではないと最近感じるようになって

きました。というのも、ヘルパーさん自体はいるけれども、障がい特性だったりとか、ご家庭の意向だったり、ご本人の意向っていうところが一致しなくて、なかなか結び付かないケースが増えてきていて、新しいヘルパーさんが支援してもらえるようになったけれども、なかなか定着しなかったとか、かえてみたけれども何か違う、対応の仕方が違うという声が上がってきて、また一から探しなおしというケースもありました。

少ないだけではなく、双方が合う取組、資源の活用というのが必要という風を感じていることが一つあります。そこで、「地域課題の抽出を通して、地域に活かせる取組を検討したい」と、あげさせていただきました。けれども、それだけではなくて、知的・精神が重複された方では、例えば金銭管理の状況、借金とか、金銭問題だとか、なかなか障害福祉サービスでくくってしまうと、取り掛かりにくいけれども、切り離すと、その人の生活には影響が出てしまうというところで、その繋がりが難しいなと思っています。何か資源とはいかなくても、何か活かせる取組みとして検討できないだろうかと思っています。相談も含めてあげさせていただきました。そういったところが地域課題、私たちが担当しているケースの課題解決は、ゆくゆくは地域に広がって、別のケースでも、こういったケースで応用していける、そういったところで、広がっていったらなと思っています。

あとは、なかなか課題の認識まではいくけれども、解決の糸口や、対応は見つからないというケースもあって、そういったところをこの場を通じて、何か方向として、私たちの力としても身に付けていけたらいいと思っています。

○森部会長

ありがとうございます。それでは、毎回来るたびに立ち位置が違うと言われると困るのですけれど、ご家族、当事者側のご意見として、お伺いしてもよろしいですか。

○山田委員

手をつなぐ親の会の山田です。知的の方の団体なのですが、情報は会として役員から800人いる会員さんに、色々な形で勉強会とかしながら、お知らせしたりしています。けれども、なかなかそれを目に触れても、動く方は動きますが、困っていないというか、困っていることに気づかない方も、とても多くて、周りから見ても、具体的に話をしていくと、わかっていく方も多かったです。

多くは、相談支援での計画を立てていただいている、目標も書かれているけれども、例えば、そろそろショートステイをみつけてとか、グループホームに向けてとか、プランに書かれていても言葉だけで終わってしまうことがあります。だからといってご本人が動けるわけではないので、具体的に話すとか分かっていくのだけれども、親が動いてもらわないと繋がらないので、私たちも協力できない、一緒にできないということもありますね。

あとはそんな中でもちょっとでも相談してくれた方には、自分が持っている情報だとか、関係機関だとかにすぐに、あしすさんと繋がぐなどをして対応しています。その後も、どうなったのか、いったん繋がった方に関しては、お母さんが納得して解決するまでは、見届けるようにすることは自分で努力しています。

この中で、私は「事例を通して」にマルをしたのですが、足立区ではいろんな形で事例検討し、いろんな方が関わったりしていると思うのですよね。とても連携がとれていて、それでもうまくいかなかったということにつ

いては、今後どうしていくのか、うまくいったケースについては、どういう人がどういう関わりでうまくいったかそのノウハウを知りたいと思います。

やはりそこで繋がりができてくるのかなと思いますし、9番の内容にも入ってるのですが、その中で障がい種別をこえた専門性が、互いに足立区の社会資源の中で活用されていくと、今後ひとりの方へのチームワークを構成していこうという流れの中で、うまく活用できるのではと期待しています。

○関口委員

父母の会の関口です。

私は、1番、3番、10番を選びました。ついこの前も、父母の会で集いがあったのですが、そこに出てきた人は、友達と話し、悩みをもって会話に入ってくるのだけれども、会に所属していても出てこられない人はおいてきぼり、どういうふうを考えているか伝わってこないということがあります。コロナでなかなか接点がなくなっているの、資源として、私たちが訴えていかないと、どんどん情報が伝わっていかなくなるのかな、と最近思いました。それと同じようなことですが、やっぱり検討した内容をどんな風に還元できるかは、やはり目に見える形で発信していかないといけないなと思いました。

肢体不自由ということもあり、なかなか自分で積極的に動くことが、子どもは難しいので、どうしても親が情報をとりにいっている解決していくことになるのが課題かと思っています。

○片桐委員

精神の家族会の片桐です。よろしくお願ひします。1番の「資源を知る」、6番の「精神障がいの理解を深める」と、最後の「本当に必要な人に届く情報発信の取り組みについて」にマルをしたのですが、事業所さんの方

と違って、家族会なので、本当にこの会議に出るまで、自立支援協議会の相談支援部会があるというの知らない状態だったのですね。

子どもの発病から30年経つのに勉強不足で、ただ日々、最初の頃は、対応だけで過ぎていました。資源を知ること、自立する方法があるということを作業所から情報を聞いて、一人暮らしができるようになって、本人が一人暮らしをしていることによって時間もできたし、家族会に頻繁に出られるようになったのですが、精神障がいについては、日々に追われ、ほかのことを考える余裕がないのですね。自分が子どもと離れてみて、はじめていろんなことがちょこっとずつ見えてくるのですが、おだやかに過ぎればよいなと思っています。若い頃は本人も何とかしたいと思っていたけど、30年経つと、健康で現状維持できればいいかなという感じで過ごしています。これからの子どもたちが、とても心配で、そういうことの資源があったら安心だと思うので、家族会にそういう連絡ができればと思います。そういう意味で皆さんの情報が知りたいと思います。

○森部会長

ありがとうございました。最後になりますけれども、どこにも繋がっていない方、障がいの分野となかなか繋がれていない方を日々みてくださっている民生委員さんの立場としてお願いします。

○小田部委員

私は資源を知る、資源を活用するという必要をすごく強く感じました。

なぜかというと、地域の障がい者で、結局今までずっと家にいて何もしなかったのですが、福祉事務所といろいろあって、生活保護を切られ、もう私は一人でやるしかないって人がいたのです。それで、私は何ができるのかなと思ったときに、やはり寄り添いの

支援が必要だなということで、まずは色々なことを聞かせていただくようにしたんですね。そしたら、本人が調べて私はこういうところにいく、こういうところに勉強にいくと言ってくれて、あ、良かったと思いました。私、何もできないから、資料をいっぱい教えてもらって、情報提供をしなくちゃいけないのだなとすごく感じました。ここへきて、コロナで生活保護の人がすごく増えているんですね。障がい者の人は自立した方も、地域でいたのですが、コロナで、生活保護って結構若い人が多いんですね。で、私わかんない、と思って、やっぱりもっともっとみんなから情報をいただいて、勉強して接しなくてはいけなくなって思いました。なかなか、寄り添いの支援というのはすごく難しいのですが、そういうことは皆さんから教えていただいて、学んで、接していきたいなと思いました。

あとは、結局、障がい者の人は、自分は違うという風に思っている人が多いんですね。だから、「そうじゃないんだよ、みんな一緒なんだよ」ということを、いつも話させてもらっています。やっぱりそういう触れ方も大事だなんて今回思わせていただきました。

○森部会長

ありがとうございます。皆さんからご意見聞かせていただいている、やっぱり双極にあるのではないかと、資源を知る、資源を活用するってということと、知っていただくためには発信していかななくてはいけないというのはセットで進めていかななくてはならないんだなというところを感じました。

私が言うと怒られちゃうかもしれませんが、そもそも支援っていう意味では、あしすとして何をするとどこか皆さんご存知ですか。なんとなく関わっている分野では知ってるんです。全く知らないっていう意味ではなくて、例えば2階は何をしてしてくれるところなのか、

1階の窓口は何をしてくれるかはわかるんだけれども、それ以外にも実はいっぱい係があるじゃないですか。その係自体全部知っているか、どういう機能があるのかっていうのは実は知らなかったりします。

あとはお子さんの分野に関して全く分からないんです。逆に精神なんかはかかわりがそんなに多くないんですか。

○小杉委員

そうですね。あしすとさんとの連携が全くないわけではないのですが、精神の分野に関して言えば、どちらかというところ、精神障がいの私たちが連携している窓口が足立保健所の中にある精神保健係さんのほうが基本の窓口になっているので、そちらの方と密に連携をとっていることのほうが多いかなというところでは。

なので、私のイメージで言っちゃって申し訳ないのですが、精神障がいは足立保健所の精神保健係さんが窓口になっていて、その他の身体、知的、児童とかはあしすとさんが窓口になっていて、重複の障害をお持ちの方ですと、あしすとさんとよく連携をとっています。

○谷内委員

私も小杉さんと同じような認識でいて、障がいでも発達に関しては、情報がないというところで、保健師さんを通じて、あしすとさんに相談をして、そこで逆に繋いでいくという形のところでとどまっているところが正直なところでは、あしすとさんの具体的な取組については、正直情報が少ないかなと改めて思いました。

○森部会長

ありがとうございます。今、あしすとして基幹相談支援センターだったりもするじゃないですか。それ以外にも機能っていうのがある、どんな風に役割分担をしていて、例え

ばどんなことだったらお願いしてもいいのかな、なんていうのが、実は分かっているようで分かってないなっていう風に思うのですが、少しわかりやすく、お話しいただいてよろしいですか。

○高橋委員

森部会長のご指摘通りで私も前回からの皆さんの活発なご意見をお聞きする中で、課題の認識は本当にある程度できているのかな、という風には感じました。ただ、やはりそれを地域に還元するという段階に到達するために、何をすれば良いのかということになると、今、部会長からご指摘あったように事業所との役割分担とか、あしすとも含めて何ができるのか、何をすべきなのか、ということが整理しきれていないっていう風には強く思いました。やはり、本当にあしすとも情報発信が不十分というご指摘はその通りで、今後、力を入れていかなければならないという風に思いました。

あしすとで皆さんと関わりのある自立生活支援室以外には、2階には就労促進訓練係ということで、障がいのある方の就労について、就労移行チームと就労定着チームに分かれて支援をしています。また、生活体験室では医ケアの方たちも含めて支援を行っており、あとは幼児発達支援室もあって、あまりそこがなかなか日々の業務に忙殺されて、自分たちのやっていることを発信というところが、これまでも今もなんですが、かなり弱いなという風には申し訳ないが感じてきたことです。そこに力をいれていかないといけないなと思うところです。

○森部会長

ありがとうございました。あしすとが機能していないとかっていう話をしたいのではなく、実は私たち情報っていう意味で全然分かっていないなっていうことで、気が付くと、

いつの間にかあしすとの中から子どもの相談ってなくなっていますよね。そんなことも実は知らないのです。どのような経過なのか、どなたに聞くのがよいでしょうか。それでは、和田さんお願いします。

○和田事務局員

げんきに移管となったのは、平成29年です。その前は、子どもの相談は、児童発達支援センターを整備するときに、通所いわゆるサービス提供部門と相談支援部門を分けるというところで、障がい児の相談支援の方は自立生活支援室に入れて、それ以外の学齢期を含めた児童期の相談を発達支援係として整備したのが平成24年ぐらいの時だったと思うのですが、この後、その機能についてはげんきに移管になって、電話番号も変わらず移管したという状況です。

○森部会長

今おっしゃった通り、電話番号は変わっていないから、所属が変わったという認識が実は全くありませんでした。あれっと思い、行こうと思ったらここじゃないっていうことに気が付いたみたいなところがあって、そういう当たり前ですけど、知っているつもりになっているけど、全然わかっていないっていうことがすごくたくさんあって、資源を知って、まずそういうところからなのかなっていう風に思ったんですね。

私たちが分からない社会資源の知識をみなさんの方がよくわかっているということがなかにはあるのかもしれないですけど、どういった発信をしていくかな、整理をどういう風にしていくかなっていうのが、まず事の始まりなのかなっていう風に思います。それをどういう風にご本人たちに発信していくのか、そしてご本人たちが発信してほしい情報ってなんなのかっていうところも合わせて拾っていけると、少し課題が見えてくるのかなと思

いました。やっぱり地域課題は足立区独特のものだったりすると思うので、足立区で住んで、生活している方にしか分からないところがあると思うので、その辺をこの会でみんなで集めましょうって言っても、なかなか難しいんだらうなって思うんですね。

まず、どんな方向性でどういうやり方をしていけば効率的に課題抽出とか情報の整理とかっていうのができるのかなっていうのを考えていけたらいいかなと思います。

ちなみに、さっき青木さんから放デイの情報の一覧表がという話があったと思うんですけど、足立区でそもそも発信している情報って、障がい者のしおりとか、実は色々たくさんあるじゃないですか。ああいう情報って、どんな風になっているのでしょうか。放課後等デイの情報はまとまったりしているのでしょうか。

○佐々木事務局員

障がい者のしおりに関しては、足立区ホームページにも掲載されています。確か放課後等デイサービスの情報もあったのではないかなと思います。

相談支援の関係は、基本的には障がい福祉課の方が所管で、しおりの関係もやっているので、ホームページアップもあちらでやっている状況にはなります。ホームページから入っていただくことで見れることは見れるかなとは思いますが。

○森部会長

ありがとうございます。要は、皆さんが一番知りたい情報って何かなっていうところが、もうちょっと拾えたら良いかなと思うんですが。

ヘルパー事業所は毎年更新されていくじゃないですか。あの最新情報ってどちらから拾うのかなとか、相談支援事業所も精神さんは分からないですけど、ここは「あ」から始ま

っちゃうから一番初めに電話がかかってきてしまうチームなんですよ。あいのわからはじまって、あけぼのにいて、あだちの里にいてみたいな。あれも最新の更新ってどんな形でされているとかわかりますでしょうか。

○佐々木事務局員

障害福祉のサービスは、基本的には指定を東京都がしています。東京都障害福祉サービス情報というページがあるんですけども、あそこに行く情報は載っています。足立区を選択し、居宅介護の選択をすると、ずらっと情報が出てきます。

○森部会長

するとパソコンがない人はどうやったらわかるのですか。

○佐々木事務局員

パソコンがないとスマホですね。スマホもないと、電子データをみる術がなくなってしまいますので、じゃあどうするって話に多分なってくるんだと思います。考えられるのは紙ベースということになりますが、紙ベースで広く、どこの窓口に置いてあるとかっていうようなことにはなっていない現状ですので、障がい福祉サービスの、例えば自分の地域にどういうところがあるのだからっていう情報に関しては、障がい福祉課の援護係が一番情報としては持っているのかなと思います。ですので、所管の援護係に問い合わせをすると近くの情報というのは教えてもらえるのかな、という風には思います。

○森部会長

それぐらいわかれば大丈夫そうですか。

○小田部委員

30歳を過ぎた障がい者の人が、あしすどさんに困りごとがあってきたんですけども、あなたはここには該当しないからと返されたんですね。それで、どこにいったら分からないって言って、同じボランティアをやっている

る人に相談に来たっていうんですね。だからもうちょっと分かりやすく、情報を発信してくれたらありがたいなと思ったのですが、私は民生委員だから自分で調べればいいですが、やはり、携帯持っていない人はどうする、パソコン持っていない人はどうするのとかあると思います。彼らは携帯を持っていたって、自分の家と自分しか繋がれないから、全然ないのですね。そういうのを考えると、やっぱり情報は必要だなと思います。

○森部会長

例えば具体的に皆さんが考えている、こんな情報がこんな風にとれたらいいなとか、分かるようになっていたらいいなというのはありますか。

○山田委員

ちょっと余談といたしますか、離れてしまうんですけども、たまたま私が作業所で働いていて、高齢の方が少しずつ介護保険を使いながらゆっくりと3年見ながらこうしていきたいなってかたちでやっているんですけど、その時に月1回でもデイサービスの半日で、その方が過ごせるとか、こういうとこなんだと馴染めたり、人間関係ができて、ちょっとずつそれを増やしながらか安心して地域の中で暮らせるようご家族と一緒に進めています。ご家庭の生活と作業所の本人がいつも歩いてくる道や知っている地域の中で、探そうといってもいってもいっぱい出てくるんですね。特色というか運動機能のこととかカラオケや余暇活動が好きなので、ゆっくり過ごせる時間も欲しいし、そういったところを望んでいるんですけども、うまく探すことができなかったのです。そこで、たまたま娘が介護の仕事をしているので、LINEで何かあると聞いたらぶわっといっぱい出てきて、ケアサービスとデイサービス等いろんな種類があって、どこどこは半日でもOKとか、その方は

みんなと一緒にレクリエーション的な運動が好きじゃないとか、具体的に教えてもらって、これからちょっと見に行こうかなっていう候補があります。ぽんと相談するとわっと情報がひらけて、そうすると、なんとなく行き詰っていたところが解決というか、楽しみながら体験してはどうかということにつながったので、たまたまなんですけども、そんなことがありました。

なので、表でもらうと、保護者の方も「自分で探すんですか」というと「そうです」と言われるみたいで、そうすると、家の近くのところから始まるけど、そこがどういう建物の中でショートステイがあったりとか、その方によって全然ニーズも違うのに見えないところがあるので、その辺、もうちょっと見えてくると選びやすいのかなって思います。

はずれているかもしれませんが、すみません。

○森部会長

ありがとうございます。「新規の困っちゃって、どうすればいいのか分かんないっていう方」だけじゃなくて、もしかしたらサービスの転換期に差し掛かる方たちも同じような状況になるってことですね。

「場面」っていうところではあるんですけども、他の皆さんいかがですか。こんなところが困りますということは、要は活字だけじゃ難しいっていうことですね。配布物配られて、そこから好きに探しといて、といわれたところで、なかなかそこが難しいっていうことですけども、他いかがですか。

○中出委員

中出です。身体の方も、先ほど説明させていただいたヘルパー事業所とのマッチングが一番大きいかなと感じています。どこに事業所があるのかっていうのもそうなんですけど、例えば、何か所も断り続けているご家庭だと、区内はどう伝わっているのか分からないです

が、なかなか繋がる事業所自体かなりなくなってしまったりしています。そうすると、荒川区にいったりとか、墨田区に行ったりとか、他区の場所へ範囲を広げてあたっていくことになるのかなと思います。

私たちも基本は協力したいと思うのですが、やっぱり一件に正直それだけ探しきるところまで一緒に寄り添ってというところが難しい状況も生じていて、ある程度、情報として、事業所情報を紙ベースでなり、口頭なりでお伝えして、ここをあたってみてくださいという形で提供するに留まるケースが多くあります。そういった中で、普段、モニタリングの聞き取りの中で、事業所最近どうですか、ヘルパーさんいないですかっていうので、一緒に情報を聞くケースもありますが、それだけだと本当に追いきれないっていうところで、足立区のネットワークや今の事業所情報っていうのを知る手段があるとすごい良いなという風に思います。それは、事業所だけではなくて、できるなら、利用者さんそれぞれが見えるものがより活用できるんじゃないかなって感じているところです。

あとは、例えば、障がい者のしおりをみたところで、生活介護を変更したいとなったときにも、生活介護というくりでは載っているんですけども、生活訓練型なのか作業訓練型なのかって足立区ではあると思うんですよ。そこまでは載っていなかったりするもので、そういったところまで分かると実習先の候補とか、利用者さんに提供できる情報としても活用できるのかなって思ったりします。

あと、障がい福祉サービスではないですが、訪問リハや訪問マッサージは、援護係でもないし、相談支援に聞かれても詳しくないし、っていうところで、じゃあどこに相談したら良いのかってなってしまう。普段整形でかかりつけもないっていう人たちは結構困っ

ている人たちもいるので、そういった情報まで広げていって、ゆくゆくは活用できるようになるとすごく良いんじゃないかなって感じているところです。

○森部会長

ありがとうございます。

○青木委員

うめだあけぼのの青木です。実は区のホームページの中には、本当にそれぞれが情報として十分に機能する情報があるなっていう風には思っていて、それこそ事業所の一覧だったりとか、先ほどお伝えしそびれた、私が最近見つけてショックを受けたというのは、「こども発達支援事業所ネットワーク」さんが作った、令和4年度3月発行の事業所紹介です。これは、放課後等デイサービスとか児発の事業所さんが、特色やアピールを含めて掲載しているものなんですね。これも、実は探すで見つかるんだけど、反対に言うと、お宝な情報というのは探さないアクセスできないので、せっかく区が、放デイや児発の一覧とかを出している、一方で区から、そういう子育て、こども発達支援事業所ネットワークさんが出している情報があるとする、そういうのは芋づるで繋がって、これについてはこっちも見ると良いよって、リンクが貼られているみたいに、情報がつながっていくのが大事なのかなと思っています。

さっき中出さんがおっしゃっていましたが、サービスの情報はのっているんだけど、足立区にない、数少ない日中保護など、他区の情報は、足立区のホームページには当然のせられないですが、こういうところを見ればありますよっていうのがあれば、ユーザーの人たちも相談に携わる私たちも、苦労少なく、アクセスしやすくなると思っところ。

あと、タイムリーにアップデートしていく、

自分の事業所だったり、うちのホームページでも思うところですが、新しい放課後等デイサービス情報など、保護者の方のほうはやく知っていて、どことこの事業所の2つ目があるところにあるらしいよ、と、私たちが遅れることがあるんですね。

例えば、保育園の空き情報は、毎月保育課でアップデートされて、それは当然、募集がからむことなので、すごくタイムリーなのですが、事業所の新規開所が、タイムリーにアップデートされると、活用しやすいと思います。ユーザーの方たちも、探しやすいと思います。

実は足立区スポーツコンシェルジュさんがいて、私たちの事業所でも活用させていただいているのですが、スポーツに特化して、フォローアップも丁寧にやっていただいているのも実感しているので、あらためてそういう窓口はありがたいなあと思っています。

それと、うめだあけぼの学園の発達支援を行っているところでは、子ども会があって、毎年、アンケートを行っていて、お稽古ごとや習いごと、病院情報とか、本当に草の根の情報をお父さん、お母さんに寄せていただいている、意外とそういう情報を私たちは活用させていただいているなと先ほど思い出しました。

○森部会長

ありがとうございます。冒頭に皆様に一言ずついただいたときに、どなたか、情報が多すぎてどこから抽出するのかということをおっしゃっていただきました。関口さん何かありますか。

○関口委員

自分が何に困っているかわからない人がいて、イエスの人はこっち、ノーの人はこっちという、「相談支援事業所の人に相談したことがありますか」という質問で、そういう

ところがあるんだと気がついたり、自分が困っていることも、相談先もわからない人が多いと思うので、すごく大変な作業だと思うのですが、イエス・ノーで、「あなたは成人以下ですか?」とか「加齢で悩んでいますか?」とか「自分のことではなくて、親の相談ですか」という風に繋がっていき、そういう自分の悩みを引っ張ってくれる設問があったりすると、気が付くことがあったりすると思います。自分だけの判断でいくと、隣のおじさんに相談するか、親戚のおばちゃんに相談するか、公的な相談があるんだとか、区ではなくてこれは都なんだとか、パズルみたいですけど、相談にいきつけなければいけないと思います。今、ポチッと出せる人はいいいけれども、出せない人にどういう風に道筋をつけてあげられるか、考えていければよいと思います。

○森部会長

イエス・ノーのフローチャートのようなものですね。最終的に「あなたはこういうところに相談にいきましょ」と導いてくれるとすてきですね。

ありがとうございます。皆さまからご意見いただいて、今年1年間、相談支援部会では、どこから取り組んでいくかというのを、残り30分位で皆様からご意見いただきたいと思っています。

今出てきたところでは、新規で困っているところがわからない、どこに相談にいったらよいかわからない、あとは加齢に伴う段階で、介護保険をどういう風に選んだらよいか分からない、どの段階で進んでよいか、サービスだけではなくて、訪問看護・訪問リハとかすごく増えているので、そういう社会資源もどんな風にしたら使えるのかなとか、いろいろ出てきたと思います。

あと、私もすごく共感したのは、ヘルパー

さんの事業所とのマッチング、2～3回断ると「この人のうちは・・・」という情報がまわることもあるようで、「そこはちょっと無理です」と、他のケースは受けてくれるのに、このうちだけは受けてくれないということがどうしてもあつたりします。

私たち自身が情報を得る先、ご利用者・ご家族が情報を得る先って、矢印でいって、最後に「あなたはここに相談に行きましょう、相談支援事業所ですね」とゴールできたとして、相談されて100%回答できるかというところ、そこにはまた情報が欲しいですとなるので、その二段構えでやっていく必要があるのかなと思うのですが。率直なところとして、皆様からこんなところから始めてはいいんじゃないか、部会で取り組むにあたってご意見をお聞かせください。

横のつながり、情報共有ができたということもあるんでしょうか。比較的に、とっかかりとして答えの出せるところからという考え方もありますけど、「1年間ではできないよ」ということになり、とりかかると果てしなくゴールが見えてきません。

まずは、情報の整理であつたり、新規の方に絞るのか等、何でもよいと思うので皆様のご意見をいただければと思います。

事務局の方から情報提供、「ネタ」はありますか。

○佐々木事務局

小ネタはないんですけど、また広がってしまうかもしれませんが、地域のマップということで、かなり前になりますが、はたらく部会が、「ネットワークのイメージ」を作っているものがありました。相談支援の方が同じような形でなるかというのは、分かりませんが、皆さんにコピーをしていないので、まわしてみようと思います。用意が足りなくてすみません。

何々という事業所というところではなくて、「こういう機関は足立区にはありますよ」、ということで、利用者さんを取り巻く環境、資源をまとめているような、そんなものが作られています。そこに注目をしながら、一つを追っていくとか、議論を進めていった経緯があると聞いています。一つの参考にはなるのではないかと思います。

○森部会長

ありがとうございます。ネットワークって、どの部会でも作らなくてはいけないと言われていて、相談支援事業所のネットワークでも広くやっていて、そこでの情報はありますか。

○佐々木事務局

相談支援ネットワークの方は、足立区にある相談支援事業さんが、定期的に交流する場、情報共有、交換をする場で、あしすとが事務局になっています。年間6回、2か月に1回のペースで、なにかしらの催しをしています。相談支援なので、足立区の相談支援の運用を共通テーマにしているということで、毎年初回は、足立区の相談支援のかたちを皆さんにお伝えすることからはじめています。

そのあとは、おひとりで頑張っている事業所もいらっしゃるということで、ひとりで孤立しないように、集まって、日ごろの自分の困っていることや心配なことの情報共有をしたり、施設の見学をしたり、請求・加算をとっていくか等、人材育成という意味合いでは外部講師を呼んだ研修をしながら、年間集まっている状況です。

現状としては、全ての相談支援事業所が、ここに集まっていたかということ、なかなか難しい状況がありますが、なるべく集まれる日時を選んで、3分の一とか集まっています。内容次第で集まりますので、ということなら聞きたいのか情報が欲しいということなんです。また、あしすとだけですと、地

域の課題が十分見えきれないということがあるので、主任の相談支援専門員さんがいる事業所にこちらに集まってもらって、コア会議というかたちで、主任さんがいらっしゃらない事業所にも一部入っていただきながら、上手に地域の課題をとらえられるように、実施をしています。課題は多いですけど、一つずつクリアできたらと思います。こんな形でよろしいでしょうか。

○森部会長

ありがとうございました。皆さま、ネットワーク図はみていただけましたでしょうか。はたらく部会は、「はたらく」というところで、相談支援部会とはちがうと思いますけれども、また、相談支援部会がどこと繋がっていくのかとか、相談の組織としてのネットワークもありますよね。

また、相談支援ネットワークでは、相談の窓口となる事業所の特徴はまとめてくださっていましたか。

○佐々木事務局員

だいぶ前に一度作ったことがあると聞いているのですが、今年久しぶりに、それぞれの事業所からプロフィールという形で、全事業所からいただいて、形にしています。これから、相談支援事業所と関係機関に情報共有するという流れはしております。

プロフィールのシートは、どんな相談が得意ということも情報としては入っているものです。

なかなか、ヘルパーの事業所が自分のところの特徴を出していくことやホームページ上は、出ていても、一覧としてあがっていくというのは、現実的には難しいです。我々もそこまでは追いきれていないのですが、相談支援の部分は、あしすの方が、細かい情報を集約して発信する準備ができているということと

○森部会長

相談に関わる場所の情報を集めて発信してくださっているということです。

少し考える時間を持ちましたが皆様からご意見、まとまりましたでしょうか。

どの辺から切り口として取り組んだらよいでしょうか。

○小杉委員

いろいろ話を聞かせていただいた中で、相談の窓口自体は、きっとあると感じました。さきほどの就労の表を見ても、たくさんの窓口があって、きっと仕事のことで困ったらここに行けばいいんだ、というのは、導かれるものはあると思うんですけども、そこに到達する術がなかなか、ないのかなということをお話を聞いて思いました。やはり、情報へのアクセスをどうしたらよいのかというのが悩ましいです。私も精神障がいの方でやっていると、精神障がいお持ちの方はコミュニケーションが苦手なことが多く、相談することが苦手だったり、勇気振り絞って窓口で声をかけるのも苦手なので、そのあたりをどう補えばよいのかと思います。原点に戻ると、私たちも情報をきちんと把握していないこともあり、テーマとして13項目あげていますが、やはり1番の部分で、私たち自身情報を把握して、情報を使えるようにならなくてはいけないということと、それをどういう風に情報を届けるということは、大きなテーマになると考えています。

1年間でできるかというとなかなか難しいと思いますが、私としてはこの辺の切り口として、自分たち自身が情報共有する、活用するということからスタートしてよいのかと個人的には感じました。

○森部会長

ありがとうございました。谷内さんお願いします。

○谷内委員

先程、小田部さんのお話で、相談を受けてその方をどこかしらに紹介してつないだとしても、その窓口にとどまってしまうことはあってはならないと思うのですよね。この受けたところは、この相談はここだな、という情報をもって繋げていければ、ひとまず、来た相談については支援のとっかかりができたと思うんです。いろんな情報にアクセスすることが、難しい人はいると思うのですが、まずはヘルプを求めて来た方に関しては、たらい回しは避けて、これはどこの相談なのかなということ、どこの相談の窓口の方も知ってしかるべきかなと思います。適切な内容を知っていれば、時間のロスをしなくて済むと考え、私自身も私の事業所もそこは足りていないと考えていて、日々、「こういう方がいるんだけど、これはどういったところに相談すればよいか」ということが問合せからはじまって、「ここはどこなんだろうね」と職員同士が話し合ったり、他機関にも問合せをします。そこでも、不十分な情報かもしれないけれども、ひとまず「こういうところがここにあって、こういう相談受けてくださいますよ」と繋げていきます。その前には関係機関に連絡して、「こういう方のこういう相談があって繋げてよろしいですか」とそういったほんのちよっとの手間の積み重ねをやって事業所のノウハウを築いていき、全体の相談の窓口として共有化を図ることができれば、よりこぼれるところがなくなると考えています。システムがなかなか持てず、日々の業務での何となくの部分が積み重なっているに過ぎないです。まだ、強めていく必要があるかなと思いますが、ちゃんと繋げていくということは、確実にできることかと思えます。

○森部会長

ちゃんと繋いでいって、孤立させないためのシステムということですね。ありがとうございます。

○小田部委員

就労の表を見させてもらって、すごい資源がいっぱいあると感じました。私が知っていれば、わけてあげられる、私が勉強すればわけてあげられる、絶対行く道あるんだ、と感じました。あきらめちゃう人もいるのですけれど、私の方が探してあげて、一緒になって進めていくことが大事なんだと思いました。そのためには資源をもっともっと整理して、こういうときはこうと、情報いただいて勉強したいと思いました。

○森部会長

ありがとうございます。片桐さんお願いします。

○片桐委員

障がい者の親としてみれば、難しいことができれば、そもそも障がいじゃないんですよね。わかりやすく、親切に対応してもらえれば、それが何よりと思うのです。

受け止めて貰えるような相談があればと、相談する方からすると思います。

○森部会長

ありがとうございます。本当にそうですね。相談する当事者にとっては、わかりやすいのが何よりで、ここに来たら大丈夫、まかせて、と言ってくれるのが一番安心ですね。

山田さんお願いします。

○山田委員

先ほどのマップを見て、つながるって大事だなと思いました。いろんな書面とかあるんですけど、私の場合、知的障がいの方ですが、実際当事者がそれを見れるかと、理解できるのかと思ったら、それはできないかなと思いました。活字読めず、文章がわからないし、まず困ったことを話したいというときに、

どういう手段があるのかと感じました。

つながった親御さんを通してでもつながった後、手段や行動を起こすときに、できないことはどうすればよいのか、相談支援専門員さんはどこまでができるのかなと思いました。それをする上でプラスするサービスが使えるのかなと、それで幅が広がっていくのか、その辺で、確実にその方の困りごとが解決まで時間をかけてでもいくような取組をできるようになったらもっとよいなと思いました。

○森部会長

ありがとうございます。本当ですよ。ネットで調べてくれるのはきっとお母さんですよ。ご本人はそもそも調べないでしょということになりますよね。

精神の方は、調べられたにしてもそういう方たちばかりではないと思います。人と繋がるのが大事なんだと思います。

○関口委員

千住の駅のところのモニターに、あなたの悩みは何ですか、とコマーシャル出したらどうかと思いました。足立区のケーブルテレビとか、当事者が見なくても保護者が見たり、保護者が見なくても、近所の人が見たり、無料で「ああそうなんだ」と思ってもらえればと感じました。コマーシャルみたいな感じで、「あなたに寄り添います」とか、「悩みは何ですか」とか、「あなたの悩みは他の方の悩みにもあります」とか、メッセージを日々目につくようにしなくちゃいけないと思うし、それが浸透したら、私たちは相談を受けるんですよ。それを繋げていける準備をしなくてはいけないし、これからすることではないかなと思います。

○森部会長

ありがとうございます。本当ですね。発信するのは人の目に触れることが大事ということはその通りだと思います。受け止める窓口の

準備ができないと発信できないと思いました。

中出さん、いかがでしょう。

○中出委員

関口さんのお話をうかがって、私も共感したところです。相談に来られない人たち、来ない人たちが何を相談したいのかということ、本当に人に相談する必要があるのか、もしかしたら自分で解決したいかもしれないし、何か方法があれば、わざわざ相談に電話しなくても、解決できるかもしれないという方法も考えると、来られない人たちが何に困っているのか知りたいというのが一つです。

あとは、専門外ということもありますし、私たちに相談してくれたからと言って、必ず私的的確な回答ができるかどうかという思いが、正直、あります。なので、私たち相談支援専門員が解決の糸口に向かって動けるように、情報共有のシステムだったり、どこを紹介するとよいよというのがあると、活用しやすいと思いました。各所の役割パターンが整理できれば、何でも相談が来ても、「気軽に相談してくださいね」と心から言えると思います。より多くの時間をつかわなくても、多くの人たちに対応できるようになるのではないかなと思いました。

その両面で考えていけるととてもいいと思います。

○森部会長

ありがとうございます。「自分ひとりで相談受けて、解決しないといけない」と考えると「できない、できない」になってしまうけど、皆で、助けて相談に乗ってくれるとか、この人がこの専門分野だから協力してもらえとか、つながりがしっかりできると、私たちも相談を受けておいて「任せておいて」と言える可能性があると思います。ありがとうございます。

○高橋委員

まず、一つ目としては、利用者に寄り添っていくというのは日頃から意識しているのですが、先ほど、委員からあった、あしすとに相談したら対象ではないという門前払いがあったというのは、信じ難いのがあったのですが、そういうことが二度とおきないように徹底はさせていただきたいと思います。

今回、優先課題にあげられている、7番にしろ10番にしろ、取り組む上の前提条件としては、社会資源を知る、社会資源を活用するということが、非常に重要であると感じました。社会資源の集積を行うことは、自立支援協議会の機能の一つでもありますので、それぞれの立場の委員の皆さんの、情報をお寄せいただいて、共有と整理をしていけばよいのかと思いました。

○森部会長

ありがとうございます。皆さんはたくさん情報もっているじゃないですか。私は小杉さんの持っている情報を全部知らないし、民生委員の小田部さんの持っている情報を全然知らないんです。

青木さん先にしゃべってもらってよいですか。

○青木委員

先程の就労の一覧を拝見して思ったのは、足立区の中で就労の障がいのある方が、就労する上で携わる相談窓口や事業所がたくさんあるのだな、と、就労に関する全体のフレームがわかりやすく、わかる図だったなと思いました。

例えば、足立区のホームページだったり、民間がやっている情報提供というのは、たしかにそこにアクセスできれば、事業所の一覧が見れたりするのだけれども、やはりそれが、「点」である、あるいはそこにアクセスができないと、得られないものなので、今一度、

足立区の中にどういう相談窓口があるかというのを、確認をしてそれをフォーマルのものも、インフォーマルのものも確認していく作業は、もしかしたら必要なのかなと思いました。成果物として、隣をまねっこするというのではなくても、やはり全体が見えるということがすごく大事なことと思いました。

それで、例えば、私たちの事業所で対象にしているお子さんたちは、当然、障がい施策と子ども施策と両方に関わるので、児童相談所から、学校から、親の会さん、民生委員から、すごく多岐にわたります。例えば、ろうの方には近くに相談できるところがあるよ、とか、盲であれば、葛飾盲学校があるよ、とか、この地域だから、相談ができるものもあるのですけれど、そういったものが網羅されていて、子どもを育てている保護者の方の支援が必要だとすると、今までの経験で、くらしとしごとの相談センターに繋がったとか、あしすとや社協に相談したりしたこともあったので、「そうそう、ここがあるな」ということを、ひらめきや思い付きで引っ張ってくるのではなくて、手がかりがあって、そうした情報があると良いのかなと感じました。就労のことは就労の部会でツリーを作っていて、自立支援協議会全体で情報を網羅できるものができれば、私たちがそれを使わせていただく、相談に活かさせていけるとと思います。

○森部会長

ありがとうございます。皆さまの情報をいただいたところで、おおむね私たちが情報を整理するということだなと思いました。

先程、言いたかったのは、私が持っている情報をまずは開示してみるということがありなかなと思ったのですね。各委員が持っている情報をこういうときは、こういうところに繋げていますよとか、こういうところがすごく相談に乗ってくれますよとかですね。う

ちはおおむね知的なので、困ったらあしすとに電話してみる、ということができていて、「専門相談」で、OTさんや心理さんに相談するのに、とりあえず、あしすとに聞いてみることをします。こうした専門相談をあしすとさんが相談から受けてくれるということをもそも知らないこともあるので、そうすると、せっかくあるあしすとでの社会資源が使いきれていないという残念なことになってしまいます。今年、12月と2月とあと2回開催予定をしているので、開催の日程だけで全部まとめるということは難しいので、皆様の持っているこんなときにこんなところへ言うのを、事務局に発信いただき、事務局にまとめていただくということができたら、それを12月にみて、こういうことがあったのね、という気づきになり、そこから整理してはと思ったのですが、いかがでしょうか。

○佐々木事務局員

情報さえくれば、こちらの方でまとめる作業はできると思いますので、まとめていきたいと思います。

○森部会長

すぐに発信いただいて、皆様から戻していただければ、そこから広げられるところが、事務局を介して集まらない時間を有意義に使えると思うのでいかがでしょうか。

こういうところの情報広げてほしいわとか、このところの情報誰か持って来てとかがみんなできれば、次回有意義にできると思います。

それでは、それで発信していただいてよろしいでしょうか。

○佐々木事務局員

わかりました。

○森部会長

ありがとうございます。12月にまとめたものが皆様にお返しできるようにしたいと思

います。

○山田委員

どういう風に出すかは、連絡いただけるのでしょうか。

○森部会長

何か元になるものを発信いただけると思います。

○山田委員

何か元になるものがあると、相談内容と、どこに繋がりますとか、私の場合は会なので、自分だけの情報ではなくて親の会として相談員としてまとめていければよいですか。

○森部会長

ぜひ、所属していらっしゃる組織の中で、こんな工夫をしているということを入れ込んでいただければと思います。

気になっているのが、フローチャートなんですけれども、そこを合わせて検討いただければと思います。

○佐々木事務局

事務局なので一方的には作れませんが、皆様からいただいたものをまとめていく作業の中で場合によってはこんな感じということをご意見・ご要望をいただきながら12月に間に合うようにしていければと思います。

3 事務連絡

○佐々木事務局員

皆様、ご意見ありがとうございます。具体的にまとめていき、今後ご協力いただきながら進めていきます。

コロナのこともあるので、2時間内で、議事まとめていただきありがとうございました。以上を持ちまして第2回相談支援部会を終了させていただきます。本日は疲れ様でした。

以上